



私たちの思いはただひとつ 目黒をよくしたい 党派を超えて

維新の党・無所属目黒区議団 幹事長 松田 哲也 議員

「目黒区が全国で第3位に!」。これは今期の地方議会の女性議員比率ですが、誇るべき順位でしょうか。

「目黒区は23区で第1位に」。これは待機児童の割合で、明らかに恥ずべき結果です。

目黒区はここ数年、就学前児童の数が増え、保育所の整備が追いついていません。「預けられないから働けない、働けないから預けられない」という切迫した現実があり、区民の不満や不安が今回の選挙結果に表れたと考えた時、手放しで喜ぶことはできません。

「36人中15人が女性議員」、目黒区議会定数に占めるその割合は4割以上となりました。新たにスタートした維新の党・無所属目黒区議団も、私以外は女性という会派です。今回、区民の皆さんが示されたこの結果を奇貨として、その声を届けていくよう心してまいります。

さて、それでは具体的に何を指すべきか。キックオフにあたり、会派としての基本方針をお伝えいたします。まずはやはり少子高齢化対策ですが、目黒区は待機児童の増加を受け早速、小学校の空き教室を保育所にすることを決めまし

た。今後もあらゆる可能性を排除せず緊急避難的な整備もすべきでしょう。また将来的な人口減少も視野に入れ、施設整備に片寄らない選択的ミニマムインカム制度(※)による支援や、3世代近居助成等による自助共助保育も並行して押し進めていく必要があります。

さらには、4人に1人が命を授かる特定不妊治療費助成や、8割以上が出産にたどりつける不育症治療費助成も導入しながら、子どもたちの声であふれる活力のある国づくりを、この目黒から進めていきます。

もう一つは、不断の行政改革による将来にツケを回さない区政運営です。目黒区に300以上ある区有施設の整理は待ったなしの課題です。築30年を超える施設も数多くあり、これは防災上も喫緊の課題なのです。

4年前に区有施設の見直しに乗り出

し、4年前には全施設を調査し白書が完成、2年前には詳細な課題整理から方針もまとめました。職員の能力の高さやスピード感、豊富な人材を頼もしく思いましたが、そこで止まってしまいました。そしてこれからも検討を重ね、2年後に計画を作り始めるということです。「巧運は拙速に如かず」ということわざがあります。

今回落選した前議員や候補者の施策や思いも継承しつつ、しっかりと二元代表制の一翼を担い、恥じない活動をこれからスピード感をもって4年間行ってまいります。

【用語解説】

※ミニマムインカム制度：現物（施設や人件費）より現金のコストが低い場合に後者を支給する制度。